埋文とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2018.3.30
VOL 142

富山県指定　南砺市ウワダイラⅠ遺跡出土品（南砺市上原）
《ナイフ形石器9点、局部磨製石斧1点、石核4点》

ナイフ形石器はどれも個性的な形をしています。旧石器時代の人は、この石器を使って何を切っていたのでしょうか？

発掘調査最前線●ほ場整備の試掘調査―富山市水橋地区の試掘調査―
とっておき埋文講座●とやまの歴史を語る―センターの発掘調査から―
埋文あらかると●刊行！ 富山県出土の重要考古資料　第２期シリーズ
Center Flash ●催しガイド２０１８
行ってこられよ●県指定史跡「愛本新遺跡」

富山県埋蔵文化財センター

ほ場整備の試掘調査 ―富山市水橋地区の試掘調査―

発掘調査最前線

はじめに

昨年、富山米の新品種「富富富」が発表されました。今秋の本格デビュー、香りや味が今からとても楽しみです。農業の新時代を支える動きのひとつに県内で広域に進められている「ほ場整備事業」があります。効率の良い農地を整備し、生産力強化や水田の汎用化などが期待されています。

こうした農地整備の工事を行うにあたっては、水田の下に遺跡が埋まっている場所があるため、事前に試掘調査を行い、遺跡に影響が及ばないよう調整するための状況把握をしています。今年度は富山市水橋地区において、田伏・佐野竹遺跡、水橋石政遺跡、水橋池田館遺跡、水橋開発町遺跡、水橋狐塚遺跡の5遺跡を調査しました。

水橋地区の水田

富山市北東端に位置する水橋地区は、江戸時代には白岩川河口を中心に栄えた港町として、また「富山の売薬さん」の故郷としても知られています。水橋地区の南部を中心に広がる水田の下には、縄文時代から近世まで数多くの遺跡が存在しています。有名な遺跡では戦国時代に織田信長に付く佐々成政と越後上杉勢との攻防の場であった小出城跡や、中世の双六盤が出土した水橋金広・中馬場遺跡などが挙げられます。

またこの一帯には立山に源を発する常願寺川、白岩川、上市川が蛇行し、支流も網目状に走っています。そのため年間を通して水が豊かな地域ですが、試掘本番を迎える稲刈り後でも水田が完全に乾燥することはまれで、少々の雨でもぬかるみが目立ちます。地元農家の方からは、軟弱地盤では農耕機が沈むため、耕作に大変苦労していると聞きました。

試掘調査

試掘調査はトレンチとよばれる幅約1m、長さ約5～20mの溝を掘り、遺構・遺物の有無、遺跡の広がりや残り具合を確認する調査です。

重機で掘り下げる

観察できるようきれいに削る

今回は重機を使ってトレンチを掘り、溝の壁面や床面は土の色・質が観察できるよう、作業員がスコップやジョレン、シャベル等の道具できれいに削ります。調査員は堆積した土の層を観察し、写真や図面、標高などの記録を取ります。記録後はまた重機によって埋め戻し、調査終了です。今年度は5つの遺跡で合計203ヶ所のトレンチを調査しました。

確認できた柱穴

土層を観察・記録する

調査の結果

・田伏（たぶせ）・佐野竹（さのたけ）遺跡

北陸新幹線の沿線にあり、昨年度に引き続いて調査しました。今年度は遺跡の中央から西部分にかけて7～8月にトレンチ32ヶ所、10月に50ヶ所を設定しました。昨年度調査した遺跡南東部分では良好な遺物包含層や住居跡等は認められず、遺跡のひろがりはないと判断されましたが、今年度は遺跡東側の一部で隣接する石割川の自然堤防とみられる微高地を確認しました。この微高地上で掘立柱建物の柱穴と区画溝などを検出し、一緒に出土した珠洲焼や中世土師器から中世の集落が存在したと考えられます。

・水橋石政遺跡（みずはしいしまさ）

西に白岩川を臨み、旧小出川跡地を含む遺跡です。かつては川原石政と呼ばれ、白岩川に渡し場があったと伝えられています。調査は遺跡中央から北部分にかけて、8月にトレンチ32ヶ所、10月に20ヶ所を設定しました。遺跡中央よりやや北の一部で、平安時代の土師器を含む黒色粘質土の層を確認しました。その直下にはわずかに微高地があり土坑を確認しました。周囲には焼土や炭化物の混入がみられ、古代の集落が存在したと推測されます。遺跡中央部の旧小出川跡地では水田下に酸化鉄を大量に含む厚い堆積があり、ヨシ・アシが繁茂していた環境がうかがえます。

・水橋池田館遺跡（みずはしいけだたち）

水橋石政遺跡の白岩川対岸にあたり、遺跡の範囲は東限が白岩川、西限は水橋高校付近です。遺跡を南北に貫く県道161号線は水橋から立山へとつながる街道で、この県道沿いの集落には旧家や寺院が建ち並んでいます。

調査は県道と白岩川に挟まれた遺跡南東部分で、10月にトレンチ39ヶ所を設定しました。調査した中では地盤が最も緩く、地点によっては60～70cmまで掘ると水が湧き、トレンチが水槽と化すことも度々でした。

調査の結果、遺跡中央からやや東に微高地が広がり、そこで土坑、溝、竪穴状土坑（土間状の遺構）などが認められました。中世土師器が伴い、中世の集落と考えられますが、他にもわずかながら平安時代の土師器や近世の越中瀬戸等が出土しており、断続的に生活が営まれていた可能性があります。微高地は県道付近を中心に広がり、地形は白岩川に向かって下がるため、遺跡南東は一面の湿地だったとみられます。

水橋池田館遺跡から出土した土器

・水橋開発町遺跡（みずはしかいはつまち）

あいの風とやま鉄道の水橋開発町踏切の南、所在地は水橋狐塚地内です。「狐塚」の地名から墳墓？の存在が疑われますが、現在、墓地である場所にかつて塚が存在したとの伝承があります。また近世には船着場があり、米を運び出していたともいわれます。

調査は11月、トレンチ9ヶ所を設定しました。その結果、遺跡の全体に洪水砂と湿地化による粘質土が繰り返し堆積した状況がみられ、遺構のひろがりや遺物は確認されませんでした。

・水橋狐塚遺跡（みずはしきつねづか）

水橋地区東端、桜木地内にあり、東には上市川と支流の下条川が流れる広々とした水田地帯です。

11月に遺跡北部分を中心にトレンチ21ヶ所を設定しました。調査の結果、水田面からの深さ15～25cmで地山が出る箇所と、湿地の粘質土が1m近く堆積する箇所があり、全体を眺めると南北方向にいくつか自然流路が走っていたと考えられます。遺物は近世の越中瀬戸が出土しましたが、流入品とみられ、明らかな生活痕跡は確認されませんでした。

開発と遺跡

5遺跡のうち、田伏・佐野竹遺跡、水橋石政遺跡、水橋池田館遺跡の3遺跡で遺構の広がりが認められました。今後はほ場整備の工事設計が具体化し、遺跡を保護しながら工事が進められます。

今年度、調査した水橋地区南部の遺跡には河川の影響を受けてきたという共通点があり、治水に苦心を重ね続けたであろう土地の履歴を垣間見ることができました。そして、新たな開発の歴史が積み重なる日はすぐそこまで来ています。

（町田尚美）

今年度調査した水橋地区の遺跡

とやまの歴史を語る ―センターの発掘調査から―

とっておき埋文講座

前富山県埋蔵文化財センター所長　山本　正敏

はじめに

昭和49年に、私は文化財保護主事として富山県教育委員会に採用され、この埋蔵文化財センターには、創設以来、通算30年以上在籍しました。

その間、県内の遺跡調査に関わり、私の考古学人生は埋蔵文化財センターとともにあったといえます。中でも私が特に興味を持った遺跡の調査をいくつか取り上げて、その重要性を紹介したいと思います。

直坂Ⅰ遺跡と立野ヶ原遺跡群

富山県最古の旧石器はどれか？

以前は富山市直坂Ⅰ遺跡を最古としていましたが、近年では南砺市立野ヶ原遺跡群のウワダイラL遺跡やウワダイラⅠ遺跡などが最古であろうというのが一般的な考えです。

埋蔵文化財センター発足前に両遺跡の調査に関わった者として言わせてもらえば、この問題は完全に決着したとはいえません。両石器群の包含地層の上下関係が明らかになる資料の出現を待って判断したいと思います。

射水市南太閤山Ⅰ遺跡

なお昨年これらの石器群が県指定文化財となったことは嬉しい限りです。

南太閤山Ⅰ遺跡

射水市南太閤山Ⅰ遺跡（下層）は縄文時代前期の低湿地性の遺跡です。現在の地表面から5～6メートルも深く埋もれ、水分の多い地層にありました。驚いたのはクルミ・クリ・ヒシなどの堅果類、シカ・イノシシなどの獣骨類、そして多種類の魚骨などが大量に出土したことです。

すなわち食料残滓（たべかす）が斜面に投げ捨てられて堆積していたのです。縄文前期人の生業や食糧事情の良くわかる一級資料でした。

同時に保存状態の良い縄文土器も大量に出土して、何個体も全体の器形を復元する事ができました。

南太閤山Ⅰ遺跡出土品

富山市直坂Ⅰ遺跡

南砺市ウワダイラⅠ遺跡

縄文時代の時間の尺度を決めるには、年代とともに形や文様が様々に変化していく土器の型式変遷（編年）が有力な手掛かりとなります。南太閤山Ⅰ遺跡の縄文土器により、より詳細な土器編年を組み立てることが可能になりました。

境Ａ遺跡

北陸自動車道建設に先立って発掘調査した朝日町境Ａ遺跡は、ヒスイ製玉類と磨製石斧の生産拠点集落として、非常に注目されました。

目の前に広がる越中宮崎ヒスイ海岸からヒスイ原石を採取してきて、大珠・勾玉・垂玉・丸玉などの玉類を、蛇紋岩（透閃石岩）を採取してきて磨製石斧を大量生産しています。

朝日町境Ａ遺跡

境Ａ遺跡出土品

おびただしい数の未完成品（製作失敗品）や、敲石・砥石・台石などといった石製工具類が出土して、まさに自家消費量をはるかに超える玉類や磨製石斧が生産されて、日本各地に流通していることが明らかになりました。

境Ａ遺跡出土品（玉類）

縄文時代における石器生産と流通のあり方を考えるうえで最高の資料であり、その後国の重要文化財に指定されました。

早月上野遺跡

私にとっては小学生の時、初めて訪れた、思い出深い遺跡です。北陸新幹線工事に先立って、遺跡中央を横切る形で発掘調査が行われました。

その結果、縄文集落として典型的な環状集落の形をしていることや、直径が300メートル以上あって、規模は日本有数のものであることが明らかになりました。

魚津市早月上野遺跡

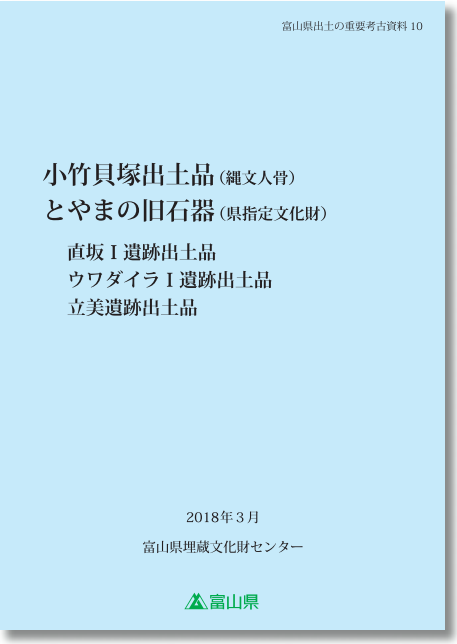
魚津市早月上野遺跡（住居跡）

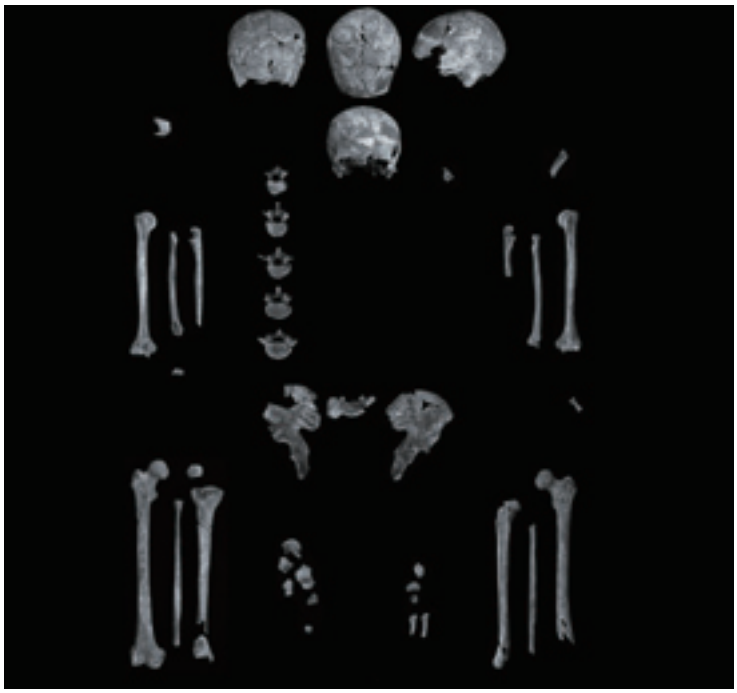
埋文
あらかると

刊行！　富山県出土の重要考古資料　第2期シリーズ

小竹貝塚出土品（縄文人骨）とやまの旧石器（県指定文化財）

当センターは本年度に開所40年を迎えました。これまでに発掘調査された遺跡は1,521遺跡にも上り、平成19年度から富山県の代表的な遺跡出土品を紹介する冊子として、「富山県の重要考古資料集」を8冊刊行してまいりました。今年度は第9集として、縄文時代前期としては最大級の小竹貝塚の人骨と初の富山県指定考古資料となった旧石器時代遺跡の「直坂Ⅰ遺跡出土品」、「ウワダイラⅠ遺跡出土品」、「立美遺跡出土品」をご紹介します。




第1号人骨

直坂Ⅰ遺跡出土品

ウワダイラⅠ遺跡出土品

立美遺跡出土品

Center Flash

催しガイド2018

【展　示　室】

企画展「古代へのとびら2018」

平成30年4月17日(火)～9月17日(月)

富山県内で発掘された出土品をとおして、ふるさとの先人の暮らしを紹介します。

展示を見て楽しく歴史を学びましょう。社会科の学習にもご活用ください。

弥生土器【下老子笹川遺跡】

特別展「旧石器時代とはどのような時代だったのか！」

平成30年10月5日(金)～平成31年3月21日(木)

人類の生活痕跡として最も古い旧石器時代。富山県にはこの時代の遺跡が約150か所存在します。本展示では、最先端の考古学の研究成果と理化学的な分析を通して旧石器人はどのように暮らしていたのか探っていきます。

接合資料【直坂Ⅰ遺跡】

【収蔵展示室】

常設展「小竹貝塚展」

平成30年4月17日(火)～
平成31年4月4日(木)

日本海側最大級の貝塚であり、91体の埋葬人骨が出土した小竹貝塚を見てもらいます。あわせて、小竹貝塚に関する最新研究の成果を展示し、より興味をもっていただきます。

骨角器【小竹貝塚】

県民考古学講座

考古学の入門編から近年の発掘調査成果まで、当センター職員を中心に著名な講師も交え、わかりやすく解説する講座です。

平成30年度は、7月より全6回の開催を予定しています。

ふるさと考古学教室

親子で楽しく学ぶ考古学教室です。勾玉づくりやガラス玉づくりなどの古代体験を通して、先人の知恵や技を習得します。

開催日　7月26日(木)、28日(土)、30日(月)～8月2日(木)、4日(土)、6日(月)～8月9日(木)
対　象　小学校4・5・6年生とその保護者

富山の歴史出張プロジェクト

市町村教育委員会と連携し、地域住民に広く地域の埋蔵文化財や歴史に触れる出張展示会や考古体験教室を開催します。地域の遺跡からの出土品に触れながら話を聞いたり、土器づくりや火起こしなどの体験をしたりすることができます。

こども考古学クラブ

ちょっと専門的に、とやまの古代について学ぶ講座です。

開催日　8月18日(土)20日(月)21日(火)
対　象　小学校6年生

人のうごき　4月1日付での異動をお知らせします。

■退職	所長	安念　幹倫	
	主任専門員	久々　忠義	
■転出	所長代理	池田　恵子	県生涯学習・文化財室へ
■休職	副主幹	髙橋　真実	県職労専従へ
■転入	所長(再任用)	安念　幹倫	
	副主幹　企画調整課長	境　洋子	県生涯学習・文化財室から
	副主幹(併任)	田中　道子	(公財)富山県文化振興財団から
	任期付職員	久々　忠義	
■異動	所長代理	河西　健二	副主幹　企画調整課長
	係長(併任延長)	高柳由紀子	主任
	主任(併任延長)	町田　尚美	主任

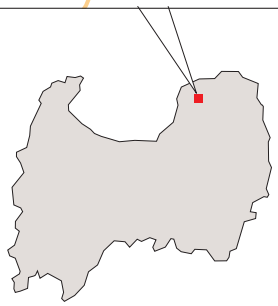
行ってこられよ ―《72》

今度の休日、ちょっと出かけてみませんか。

県指定史跡「愛本新遺跡」黒部市宇奈月町愛本新地内

縄文時代中期から晩期にかけての集落遺跡です。黒部川右岸の河岸段丘の縁辺部に位置しています。

昭和40年代の調査で縄文時代中期の大量の遺物と後期の竪穴住居跡が見つかりました。中期の遺物には磨製石斧の未完成品や石器製作用の砥石などの工具が見つかり「石斧作りのムラ」であったことが分かりました。

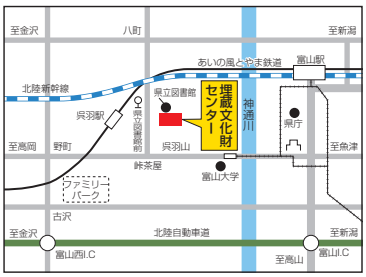


■富山地方鉄道
愛本駅から徒歩50分

■北陸自動車道
黒部ICから自動車で15分

編集後記

今年は、例年より積雪量が多く富山らしい厳しい冬になりました。その分、春の訪れがうれしく感じます。春のウキウキ気分でぜひセンターへ足をお運びください。　（担当 米田）



富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」vol.142
平成30年3月30日発行　編集／富山県埋蔵文化財センター　〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814
URL http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/maibun/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

富山県